

くどう市長と語ろう！

ふれあいトーク

(第20回)



日 時 平成30年1月24日(水) 18時30分～

場 所 大黒二町内会館

《開催・実施内容》

- ◆ 参加者 19名 (男性15名 女性4名)
- ◆ はじめに、工藤市長から挨拶と最近の新聞記事のなかから本市に関係している事柄について、近況報告を行いました。

1. 空港の民営化について

北海道内にある新千歳・函館・釧路・稚内の4か所の国管理空港は新千歳は黒字が大きく、他の3か所は赤字の状況です。新千歳の黒字を他の空港にも展開・投資し、もっと飛行機や人を呼び込みむため、これらの国管理空港と、市管理空港の旭川・帯広、道管理空港の女満別を加えた7か所の空港の運営を一括して民間に任せようという方向で作業が進んでいます。是非、もっと稚内や北海道の空港を利用してもらい活性化につながるよう努力していきたいと考えています。

2. JR北海道の問題について

平成28年の11月にJR北海道が単独で維持することが困難な、13線区を発表し、そのなかに名寄ー稚内間が含まれていました。以来、北海道において、残すべき路線、協議を要する路線など議論されていて優先的に残す路線が提言されることとなります。我々も、名寄ー稚内間が何とか残すべき路線に残ってほしいという思いで、存続に向けた取り組みを続けている最中です。

3. 風力発電に伴う送電網の整備について

本市は風力発電に適している土地柄ですが、たくさん発電しても送電網が弱く、電気を送ることができない、という問題がありました。

この送電網を強化する事業予算が、国の2018年予算で予算化され、4月以降、事業が始まります。2020年度から2021年度ころには稚内から天塩中川まで18万ボルトの送電網が整備されます。

4. 国民健康保険制度の都道府県単位化について

これまで国民健康保険制度は、市町村単位で運営されており、それぞれ税率が違い、また、集めた健康保険税だけでは運営できないため、一般会計から国保会計への繰り出しも必要でした。

4月から都道府県単位の運営になり、国が補填するように、制度が変わり、市町村の負担が抑えられることとなります。

◆ふれあいトークで話し合われた内容は、以下のとおりです。

1. 『少子高齢化に伴う現状』について
2. 『エゾシカ対策』について
3. 『政府の幼児教育無償化策』について
4. 『市庁舎の建設』について
5. 『市営住宅』について
6. 医学生への『就学奨励金』について

1. 『少子高齢化に伴う現状』について

●参加者からの意見、質問

《質問者：大黒三町内会関係者》

大黒三町内会は、人口約1,200名のうち65歳以上の高齢者が277名おり、対して小学生は24名、中学生は19名で高齢化が進んでいます。

一戸建て住宅は約100軒に対して、市営住宅が11棟で224軒分あり、うち高齢者は155軒に入居しており、大きな割合を占めています。

市営住宅に若い夫婦など子供がいる世帯を優先的に入居させて、高齢化に歯止めをかけ地域活性化につなげることはできないものか。

●市長の発言

市全体では、65歳以上人口の高齢者の割合は30%を超えているなかで、大黒三町内会は25%を下回っており、高齢化が進んでいない地域と言えます。

市営住宅などの公営住宅は、戦後に、低所得者の方に住宅を提供するという趣旨で進んできた政策ですが、客観的に判断する委員会のなかで、緊急度が高い方に提供する、というやり方をしています。

ただ、単に従来の話ではなく、若者に対して住宅を提供する何らかの方策は考えなければならない必要性は感じており、一つの地域の問題というよりは、市全体として住宅政策を議論していかなければならないと思っています。

2. 『エゾシカ対策』について

●参加者からの意見、質問

《質問者：大黒三町内会関係者》

- ① 宗谷地域野生鳥獣対策会議によると、管内では鹿駆除4,500頭とのことで、駆除の方法にも、いろいろな規制があると思いますが、国や道に規制緩和を訴えて、鹿の害を無くす努力はできないのでしょうか。
- ② 農作物や花壇の被害、交通事故も多い。稚内市全体の鹿の数に対して駆除した数はどうなのか。それに対して繁殖力はどうなのか。稚内の鹿に対する取り組みを教えてください。

●市長の発言

- ① 市街地の裏山は、鳥獣保護区になっており、狩猟ができない地域ですし、当然、猟銃もどこでも使えるわけではありません。罾でも捕獲していますが、決められた方法でなければ行えず、様々な制限があります。
そのような中、例年2月には、許可をもらって50頭ほどを捕獲しています。市街地では猟銃が使えないため、去年は試験的に吹き矢を用いた捕獲も試みました。
- ② 鹿の全体の頭数は把握できておりませんが、本市でも、農村部では年間700頭から800頭を捕獲しており、農業被害額も減少しているため、全体では鹿は減ってきていると考えています。市街地の裏山では50頭ほどの捕獲となっており、減っている実感はありませんが、新年度には、これまで職員が直接行っていた罾の設置業務を外注したり、市街地での吹き矢による捕獲の日数や人数を増やしたりと、捕獲頭数の増加につながるように、予算を組んで、しっかり取り組んでいきたいと考えています。

3. 『政府の幼児教育無償化策』について

●参加者からの意見、質問

《質問者：保育関係者》

政府の幼児教育無償化策では、新聞報道などで、認可外保育所の利用者に対しては月額25,700円を上限とする、という案が示されているが、市として認可外保育所の利用者への保育料の補助などを行う考えはいかがか？

●市長の発言

本市では、前市長の時代から、これまで幼稚園や認可保育所へ行く際の負担を減らしたり、給食費に対して助成したりと、子どもにかかる負担を減らして少子化対策に結び付けようという思いでやってきました。

しかし世の中、非常に変化していて、親の働き方も千差万別で多様化しており、待機児童の問題も言われていて、毎日、朝9時から夕方5時の範囲だけに保育の需要があるわけではなく、少しだけ預けたいとか、夜預けたいとか、そういう需要が増えています。

市としては、少子化対策や待機児童の問題について、どんな施設や支援が必要なのか、総合的な視点をもって、研究しながらしっかりと取り組んでいきたいと考えています。

4. 『市庁舎の建設』について

●参加者からの意見、質問

《質問者：大黒二町内会関係者》

市庁舎は建設から、50年は経っているが鉄筋コンクリートで立派だし、長く使うのもエコだと思う。新聞報道では新庁舎建設を起爆剤にしたい、ということがあったが、逆にそれを打ち消してしまうことはないのだろうか。市長の見解、方向性をお聞きしたい。

●市長の発言

市庁舎は昭和42年建設で50年経過していますが、これまでのメンテナンスが良かったこともあり、見た目はいいんですが、検査をしたところ基本的には震度5の地震には耐えられない建物です。

何かあったときに、対策本部を作ったり、市民が安心して来られるような中核でなければならない、あの庁舎にはそういった役割があって、現状を皆さんがどう考えるのか、そういう建物をいつまで維持するのか、まずは検討して、考えなければなりません。

中央地区は、中心市街地として指定していて、病院、銀行など様々な機関が集中していて将来に向かって、どう整備していくのか、ということを考えてときに、やはり中心となるのは、市庁舎がそういう現状であるから、そこはしっかりと考えていかなければなりません。

わたしの任期も来年4月で終わりますが、そういったことも含めて、皆さんの声を聞きながら、市庁舎をどうするのか、できるだけ早い段階で、わたしの責任で方向性を示したいと考えています。

5. 『市営住宅』について

●参加者からの意見、質問

《質問者：大黒二町内会関係者》

末広の市営住宅では、花壇を作っているお年寄りがいます、去年の秋頃に「強制撤去」や「退去」といった警告の紙が貼られ、個別配布もされ、相談を受けた。市役所にも聞いてみたが、撤去を求められ、ベランダでやったかどうかという提案も4階建てなので難しい。

公園の空き地などで畑を作ったりできないものか。

●市長の発言

今、すぐにできる、できないというお返事はできませんので、状況を確認したうえで、所管と地域の方で話をするようにします。

■ 検討状況など 【担当・・・建設産業部都市整備課】

現在、菜園スペースが設置されている一部の団地を除き、敷地内での植栽や菜園等の設置は認めていない状況です。

花や観葉植物等の植栽を認めた場合の維持管理方法や、穀物・樹木等の根を張るような植物は、仮に管理している人が退去した後の管理方法や、現状回復が行えるか等の課題を整理する必要があるため、今後、市内全団地を巡回し菜園等の現状把握を行い、必要に応じて各団地自治会から聞き取り調査を実施するとともに、全道他都市の公営住宅の状況も調査確認しながら、設置の可否や管理方法を検討していきたいと考えております。

6. 医学生への『就学奨励金』について

●参加者からの意見、質問

《質問者：町内会関係者》

医学生への奨励金は、支給額はどれくらいなのか。また、その資金を使って卒業後に稚内へ戻ってきている人はいるのか。

●市長の発言

「地域医療を考える稚内市民会議」のなかでは、医師のたまごを奨励金という形で応援するには額が少なく、また、地域に戻ってこない、という話題にもなっている。金額の見直しについての話も出ている。

●川野まちづくり政策部長

「岩田」「福井谷」「鷹田」の3つの奨励金があり、岩田については1学年で10万円、他の2つは1学年で5万円です。これまで3つ合わせて140名ほどが利用しています。

奨励金を利用した方のなかで、稚内市へ研修や勤務といった形で戻ってきた方はいるかもしれませんが、開院という形はありません。

《終わりに工藤市長から》

長時間、ありがとうございました。

また、今日もこうして皆さんと一緒に話しする機会を得て、気づかされたことがたくさんあります。

是非、これを市政に反映していきたいと思いますので、どうぞ、よろしくお願いいたします。



ご参加いただいた皆さんから、地域の様々な課題についてのご意見ご提案をいただきました。

お忙しい中、ご参加いただきましたことに、心から感謝申し上げます。
ありがとうございました。